

平成28年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立稲原小学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成28年4月19日(火)

(2) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 小学校第6学年 10名

教科に関する調査 国語、算数

主として知識に関する問題(A)

主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等

学校質問紙調査 ----- 学校の教育活動全般についての取組や学校の
人的・物的整備の状況

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

- 漢字を正しく読んだり書いたりすることは概ね良好であるが、ローマ字で書いたり、ローマ字を読んだりすることに課題がある。
- 目的や意図に応じて質問を考えたり、グラフなどを基に自分の考えを書いたりすることに課題がある。

(1) 国語A (知識)

- ◇漢字(お年玉を貯金する)を読むのは、すべての児童ができている。[A1]一 100%
- ◇漢字(アサガオのたねをまく)を書くは、すべての児童ができている。
[A1]二 100%
- ◇目的に応じて、図と表を関連付けて読むことは、すべての児童ができている。
[A5] 100%
- ◆平仮名で表示されたものをローマ字で書くことに課題がある。[A8]2 50%
- ◆ローマ字で表記されたものを正しく読むことに課題がある。[A8]3 50%

(2) 国語B (活用)

- ◆目的に応じて、質問したいことを整理することに課題がある。 [B1]一 30%
- ◆話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題がある。
[B1]三 20%
- ◆目的や意図に応じて、グラフを基に自分の考えを書くことに課題がある。
[B2]二(1) 40%

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	国語 (A)	国語 (B)
話すこと・聞くこと	80.0	33.3
書くこと	80.0	43.3
読むこと	80.0	60.0
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.0	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

算 数

- 分数や小数などの四則計算や不等号、数の大小関係の理解はできている。
- 割合の考え方や基準量、比較量の関係を正しく捉えて、活用することに課題が見られる。
- 式の意味などの説明や、理由などを筋道立てて記述することに課題がある。

(1) 算数A (知識)

- ◇末尾の位のそろっていない小数の加法の計算は、ほぼすべての児童ができています。 [A2](2)90%
- ◇単位量当たりの大きさの求め方は、多くの児童ができています。 [A4]80%
- ◇示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことは、ほぼすべての児童ができています。 [A9](1)90%
- ◆1を超える割合を百分率で表す場面で、基準量と比較量の関係の理解に課題がある。 [A9](2)30%

(2) 算数B (活用)

- ◇示された条件を基に、ほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることは、すべての児童ができています。 [B1](1)100%
- ◆グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述することに課題がある。 [B4](3)10%
- ◆示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味を説明することに課題がある。 [B5](1)10%

学習指導要領の領域等	平均正答率 (%)	
	算数 (A)	算数 (B)
数と計算	89.0	50.0
量と測定	85.0	38.0
図形	90.0	26.7
数量関係	63.3	38.3

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う児童の割合は、国語・算数ともに全国よりも小さい。

	国語	算数
学校	50	50
県	55.6	68.4
全国	58.3	66

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う児童の割合は、国語・算数ともに全国や県を上回る。

	国語	算数
学校	100	90
県	81.2	82.6
全国	80.7	80.2

(3) 平日に授業時間以外に全く勉強しない児童はいない。しかし、1時間以上勉強をしている割合は、学校 10、県 61.6、国 62.5 で、学習時間の短い児童が多い。一方、休日に全く勉強しない児童の割合は全国に比べて大きい。

	平日	休日
学校	0	60
県	3.8	14.5
全国	3.0	10.2

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」児童の割合は、全国・県より大きい。

学校	70
県	57.4
全国	62.3

(5) 「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した児童の割合は全国・県を上回る。

学校	80
県	52.6
全国	52.4

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	80
県	63.5
全国	67.9

(7) 家で、学校の授業の復習を全くしていないと答えた児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	30
県	14.8
全国	14.2

(8) 自分にはよいところがあると思っている児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	70
県	34.8
全国	36.2

(9) 授業の中で、わからないことがあったら、その場で先生に尋ねると答えた児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	60
県	17.7
全国	15.2

(10) 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが、「難しい・どちらかと言えば難しい」と答えた児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	90
県	64.5
全国	60.4

4 調査結果を踏まえた改善方策

(1) 学校の教育活動として

- ① 指導方法の工夫改善を生かしたわかる・できる・楽しい授業づくりの推進
 - きめ細かな指導の工夫 TT指導（算数、国語を中心に）など
 - 学び合う授業づくり グループ・ペア学習などによる学び合う学習活動の充実
 - ・書く活動や話し合う活動を通して、考えを高め合い考える力を伸ばす。
 - 基礎、基本的な学習内容の確実な定着と習熟 補充学習による学力補充
- ② 学力向上に向けた学習環境づくり
 - 読書指導の充実 朝読書(水木金15分) ボランティアによる読み聞かせなど
 - スキルタイムの工夫（月～金 13:40～13:50） ・読み書き計算、視写、条件作文など
 - 自分の考えや意見を発表する習慣づくり 朝・終わりの会等でのスピーチなど
 - 考えなどをわかりやすく書く力を高める指導の工夫（ノート指導の充実）
- ③ 家庭・地域との連携
 - 家庭での読書活動の推進
 - 家庭と連携した家庭学習の充実 「家庭学習のすすめ」の活用
 - ・自主学習の工夫 ・家庭学習強化週間の実施

(2) 算数・国語を通して(誤答分析などから)

① 算数科では

- ◇ 比較量や基準量の関係や単位量あたりの大きさ、百分率、割合の意味などの理解を確実にして、それらを関連づけて活用できるようにする。
- ◇ 円や三角形などの図形の性質を関連させて、活用できるようにする。
- ◇ 筋道を立てて考え、考えや理由などを数学的に表現できるようにする。
 - ・理由などを順序よくわかりやすく書いたり、説明したりする活動の充実
- ◇ 考えや理由などを説明し合ったり、話し合ったりする活動を工夫し、学び合うことを通して考える力を伸ばしていく。
 - ・ペア、グループ、全体での目的を持たせた話し合う活動の工夫
 - ・多様な考えを比較・検討して、よりよい考えなどをつくり出す活動の工夫

② 国語科では

- ◇ 漢字やローマ字の読み書きなど、基礎・基本的な学習内容の習熟定着を図る。
- ◇ 文や文章の構成などについて、学年に応じた継続的な指導を充実させる。
- ◇ 様々な資料から得られた情報を関係付けて、目的や意図に応じて考えや意見など書く指導の充実
- ◇ 目的意識、相手意識を明確にした様々な言語活動の充実（記録、説明、報告、紹介、批評など）
- ◇ 条件に合わせて、自分の考えをまとめて書く学習活動の工夫（字数（何字以上、以下）、使う言葉、書く内容など）
- ◇ 考えなどを書く活動を充実させ、グループ学習、ペア学習などを工夫して、考えや意見を高め合える学習活動を進める。
- ◇ 言語活動のもとになる読書活動の充実 語彙力の向上、言葉の力の育成（読書の時間、読み聞かせ活動、家庭での読書活動など）